

JELA NEWS

ジェラ ニュース 第14号 2007年11月15日発行 発行責任者 古川文江

日本福音ルーテル社団 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26 Tel.03-3447-1521 Fax.03-3447-1523 jela@jela.or.jp www.jela.or.jp 口座番号 00140-0-669206 加入者名 日本福音ルーテル社団

難民支援／アジア子ども支援／ブラジル子ども支援／ボランティア派遣／リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座／奨学金制度／宣教師支援

社会に出ていき 手をさしのべる

「お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが乾いていたときに飲ませ、
旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれた。」
マタイによる福音書 第25章35～36節



グループ・ワークキャンプ2007～Renovate(修復する)～ 今年も祝福のうちに無事終了

毎夏恒例となった、米国のグループ・ワークキャンプへの青少年ボランティアの派遣が今年は7年目を迎え(米国では超教派の催しとして30年近く実施されています)、日本福音ルーテル教会から7名(武蔵野、名古屋めぐみ各2名、室園、熊本、玉名各1名)、他の教派から2名の合計9名の若者たちが、アイオワ州の奉仕キャンプに参加しました。今回はどん

な素晴らしい体験をしたのでしょうか。4頁以下に参加者の報告を掲載していますのでお楽しみください。日本福音ルーテル教会とJELAはこのキャンプの他に、大学生や成人を派遣対象とした、インドとカンボジアでのワークキャンプも実施しています。皆様のご参加を歓迎いたします。

【この号にはこんな記事が】 地球の裏側から、教会の裏と表を考える(徳弘浩隆)など……2 リラ・プレカリア(祈りのたて琴)のハーブ・コンサート(中島 愛)……3 米国グループ・ワークキャンプ参加者レポートなど……4 AGDM難民参加型アセスメントについて(宮澤 哲)など……6 お知らせ……8

「地球の裏側から、教会の裏と表を考える」

JELC事務局長 徳弘浩隆（JELAブラジル委員）

目的

9月18日から26日までブラジルを訪問しました。目的は、渡辺純幸副議長・世界宣教委員長とともに、JELCが派遣している渡邊進宣教師と面談し、現地日系教会およびブラジル福音ルーテル教会（IELCB）を訪問することでした。JELAのブラジル委員会でも共有した結果、JELAの支援活動をJELCに紹介する好機と受け止めていただき、古川事務局長にも同行をお願いしました。

歴史と現状

JELCのブラジルへのかかわりは、1957年のLWF大会でブラジルでの日系人伝道を提案されたことに遡ります。その後、1964年に初代宣教師藤井浩先生ご夫妻がサンパウロ日系教会に派遣され、延べ8名の宣教師が順次派遣されてきました。

一方、JELAのブラジルとの係わりは、1995年にJELCが企画した「ブラジル宣教30年記念訪伯団」が、子どもたちが路上生活をしないようにと保護活動が続ける現地教会施設を訪問したことに起因します。大きな触発を受けた訪伯団参加者により、ブラジルの施設の働きを日本からも支援しようという信徒運動が始まり、その後、JELAの公益活動奉仕プログラムのひとつとなりました。さらに、ボランティア派遣や現地神学生の奨学金支援、ファベラ（不法定住を余儀なくされている貧しい人たちの居住地域）の支援活動、日本国政府からの草の根無償支援金申請の取次ぎなどへと発展してきています。

そのような中、現地日系教会も世代交代や高齢化が進み、旧日本基督教団系の「南米教会」が同じルーテル教会に加盟した後、「サンパウロ教会」とこの「南米教会」の二教会は「日系パロキア」という教会共同体を形成し、サンパウロ教会で育ち、JELCが来日日本語研修などを支援した日系人牧師・大野健牧師がパロキアの主任牧師とな

り、宣教師はそのもとでチームで働くように変遷してきました。

JELCはサンパウロ教会の宣教師の人件費負担をしています。JELAもパロキアを支援し、特に最近ではJELCとの共同プロジェクトにより、南米教会が進めているジアデマ（ファベラがある地域）の子どもたちの支援・伝道プロジェクトに支援金を送っています。またIELCBの地方教会と連携し、サンパウロのCasa Mateus（マタイの家というファベラの青少年支援施設）やReconciliação（和解の家という他地域の同様の施設）、ポルトアレグレのCILR、CEDELなどへ資金援助をしてもらいました。

ブラジルのルーテル教会は、250年程前からのドイツ系移民の子孫として教会を形成・維持してきました。ドイツなどからも資金援助や宣教師派遣を受けてきましたが、現在減少しています。しかし、ルーテルの弱い地域やアマゾン地域などの開拓伝道にも取り組んでいます。また、教会の前の道で寝泊まりしていた子どもたちに支援を始めるうちに、ファベラに保育園や教育福祉施設を設立していくに至った歴史も聞きました。施設では明るく輝く子どもたち、青年達の笑顔に触れました。これらは各個教会や地区が支援している別法人で、地域政府からも資金援助があるのですが、教会員や牧師の意識から離れてしまいかちという課題も抱えているようです。

それは、私たちの教会の内側への働きと、外への伝道と奉仕という両面の働きの大切さ、また、教会と施設の有機的な関係の大切さを考えさせ、さらに、JELCとJELAの有機的な働きの大切さも考えさせます。JELCも経済的にようやく自立しましたが、教勢低迷と財政力の弱体化や牧師不足など厳しい状況を抱えています。ブラジルとの係わりを通して、少なからずの援助と共に、実はたくさんの事を学び、私たちの信仰や組織全体が「キリストの体」として育てられる大切な機会にもなっていると思います。

訪問の成果と今後の展望

今回、日系パロキアの二教会と一集会所にJELCとJELAの責任者が初めて一緒に訪問し、諸施設にも初めて公式にJELC責任者が訪問できたことは、今までの歴史で意義深いものでした。ブラジルへのこれら二つの取り組みや呼びかけがあり、また現地でも日本のルーテルというだけで、教会（JELC）と協会（JELA）のどちらなのか分りにくく、時に誤解や混乱があったからです。競合でも援助競争でも分裂でもなく、ひとつのミッションに召された同じ共同体のひとつの働きとして、共同と共働、そしてキリストにあるひとつで多様な働きとして、ブラジルも、またJELCとJELAの執行部が認識し、調整し動かしていくことが始まったともいえるでしょう。

ブラジルの教会も既に共同体を作り、教会本部や教区の意向というより、夫々の教会が将来を主体的に模索しています。日系パロキアでは献身を決意して勉強している青年もいます。教会として日系人伝道と共にブラジル人の伝道、ファベラで

の奉仕と伝道ということにも共に取り組み始める形や方法を模索しています。JELCとJELAはそれをよく理解し、今後は必要なら違う形でお支えしなければと思われずされます。

また、諸問題を抱える海外で、日系の方々もおられるブラジルで、教会や教会の諸施設の働きに触れ、共に信仰を守り奉仕する機会を得ることができるなら、ボランティア派遣も信仰を育て、帰国後も大切な働き人として整えられていく貴重な機会でしょう。私も一時期こういうところに飛び込んでボランティアをしてみたいと何度も思われました。きっと違うものが見え、違う自分を育てていただけるのではないかと思うのです。

JELCも宣教する教会により成長するために、宣教方策を立て次の時代を見据えて取り組んでいるところです。JELAも公益法人改革を控え、今後のあり方を見つめなおしているところです。ブラジルも諸調整が始まる時です。今回の訪問を通して、神様の大きな計画の行く末を考えさせられました。私たちが神様の導きをいただいて、そのミッションに間違えなく進み、用いられるようにと祈られます。

JELAの皆さんの大きな、意味ある働きに感謝しながら、JELCの教会員の皆様に、理解とご協力をお願いしたいと思います。そして、伝道・奉仕・教育というひとつのミッションに共に預かりましょう。神様の祝福がありますように。



ジアデマの青年と徳弘先生

ブラジル出張エピソード

JELA事務局長 古川文江

ヘコンシリアサンを訪問した折、見覚えのある一人の女の子を見かけました。名前を尋ねると、やはりあのパメラでした。2001年に私が研修をしていたときのこと、施設関係者から次のような話を聞きました。

「あの子はパメラと言います。数ヶ月前、あの子の母親は夫に愛想を尽かし、娘を置いたまま出て行ってしまいました。残された夫は2歳のパメラの世話に無関心で、私たちがパメラの存在を知ったとき、彼女は汚れ放題で、かつ瀕死の状態でした。私たちはすぐにパメラを保護し、父親に子育てのイロハを厳しく教えました。今、パメラはあんなに元気に笑うようになり、私たちは喜んでます。」

私は大きく成長したパメラに再会し、改めてヘコンシリアサンに感謝しました。このように、ファヴェラの子どもたちのために活動が続けるブラジルの施設は、日本の私たちが理解する学童保育の域をはるかに超え、子どもたちの基本的な生命と子ども時代を守るために努力しています。

リラ・プレカリア(祈りのたて琴)のハーブ・コンサート

JELA職員・中島 愛

JELAのリラ・プレカリア(祈りのたて琴)プログラムを多くの方々に知っていただくために、アメリカからハーブ奏者のクリスティーナ・トゥーリンさんをお迎えし、9月7日から17日にかけての週末と祝日に何回かコンサートを開催しました。会場となったのはルーテル大岡山教会、平福音キリスト教会(福島県いわき市)、米沢興譲教会(山形県米沢市)、ルーテル日吉教会、聖路加国際病院、ルーテル武蔵野教会、ルーテル栄光教会(静岡県)の7箇所です。また、JELAミッションセンターにて公開講座、三有堂病院(山形県米沢市)にてハーブ療法の実演も行いました。東北地域の会場は、リラ・プレカリア受講生の関係組織です。すべての会場の来場者数合計は533名、献金総額は334,801円でした。

リラ・プレカリアとしては初めてのプロモーション・コンサート、そして私自身、初めて担当したコンサート・ツアーでしたので、すべてが手さぐりの状態で、何かとバタバタとしましたが、各会場の牧師先生をはじめ、教会員の方々、リラ・プレカリアの受講生の皆さん、同僚に助けられて、また、たくさんの方々との出会いと交わりを通して、神様をより近くに感じる事ができたひとときでした。

今回のコンサートは会場ごとに内容が異なり、クリスティーナさんと教会の子どもたちによる合同演奏がメインになっていたり、リラ・プレカリアの先生方や受講生がハーブ演奏や歌を披露したり、クリスティーナさんのソロ演奏があったりと、司会・通訳としては毎回ハラハラドキドキしましたが、クリスティーナさんがその会場の雰囲気にあったハーブ音楽を奏で、そしてお客さまがその音楽を優しく包み込む雰囲気を作ってください、どの会場でも、そこでしか味わえないコンサートになったことがとても心に残りました。

印象的なことは数多くありますが、一つ挙げるとすれば、日吉教会での出来事です。コンサートが終了した後、来場されていた多くの人々(子どもから大人まで)がステージに上がって、楽しそうにハーブを触っておられました。リラ・プレカリアの働きは、おもに末期患者や、様々な問題を抱えている人々に、歌とハーブ演奏による生きた祈りで奉仕をするというのですが、皆さんがハーブを聞いて、触って楽しんでいる光景を見て、音楽は、どんな人にも、色々な感情や癒しをもたらすものなのだとい

うことを、改めて実感しました。「神様は、言葉がなくても祈るために、音楽をくださった」という意味を体感したような気がしました。

リラ・プレカリアの働きを少しでも多くの人々に知ってもらいたいという願いから今回のコンサートを開催したのですが、音楽を通して様々な人との出会い、助け合い、人との交わりの大切さを再度教えてもらったコンサートになりました。ご協力いただいた会場の皆様、本当にありがとうございました。



米沢興譲教会



むさしの教会



日吉教会



平教会



三有堂病院

リラ・プレカリア使用テキストを翻訳出版！

リラ・プレカリア(祈りのたて琴)の研修時に使用しているステラ・ベンソンさんの著書『The Healing Musician: A guide to playing healing music at the bedside』日本語名『ハーブ・セラピー』が、同研修プログラムの講師・神藤雅子氏により翻訳され、9月に春秋社から出版されました。CD付で2940円です。「本書は、病む人の病床でのハーブの即興的演奏の指導書です。ハーブは病む人の心を安らげるのに最も適した楽器です」(帯に記された、日野原重明先生の推薦の言葉)。購入ご希望の方は、JELA事務局(03-3447-1521)までお電話ください。



第2回 リラ・プレカリア研修生募集中！

12月20日 申し込み締め切り

グループ・ワークキャンプ2007 参加者レポート

後悔しない選択

(後藤理奈／ルーテル室園教会・17歳)



毎日のテーマの一つに「選択」というテーマがありました。夜のデボーションで話しているとき、選択には、自分で決める選びと最初から決まっている選びがある、ということに気がされました。みんなの意見や考えは驚かされるものばかりで、共感する事も沢山ありました。最初から決まっている選びは、悪い方に行ったとしても、そんなに後悔しないし、諦めがつく。だけど自分で決める選びは一生後悔すると思うし、それが大きければ大きいほど後悔すると思いました。やっとならば良かった・・・なんて今まで沢山思ってきたけど、そんな思いはしたくない、とおもいました。そのおかげで、次の日から、クルー（＝奉仕作業の仲間）に対する気持ちが変わりました。前までは、失敗を恐れて逃げる選択ばかり取っていた私だけど、それからは、なにをするにしても、少しでも勇気がある方を選びたいと思うようになりました。そして日本に帰ってからでもちゃんと考えて選択していきたいと思います。今回のキャンプで自分が大きく変わった機会だったと思い、とても感謝しています。

神様との新たな関係

(浦野恵理／西東京キリスト教会・18歳)



わたしがワークキャンプに参加して得たものは数え切れないくらいですが、一番大きなものは、神さまとの関係です。神さまは、わたしがどんなに神さまを裏切るようなことをしても、いつも許し愛してくれていました。でも、わたしは自分のことが好きになれませんでした。何度許してもらっても同じ罪を犯してしまう自分、けじめのない自分、自己中心的な自分。直

したくてもなおらない自分の悪いところが嫌いでした。こんなんじゃ神さまから愛してもらえないと思っていました。こんなんじゃクリスチャンですと胸を張って言えないと思っていました。でも、お祈りをしているとき、神さまは、自分を許しなさいと言ってくださいました。わたしはいつも許して愛してるんだから、自分自身を許し、好きにならなさいと。考えが180度かわり、涙があふれてきました。すごく心が軽くなって、うれしくて、うれしくて、神さまがわたしの心の中にいらっしゃることを感じました。

イエスと共に歩む

(上村知世／ルーテル熊本教会・18歳)



キャンプが終わってケアカード（＝参加者どうしが友情の言葉を交換するカード）を見ると、トムからのものすごく長いメッセージが入っていました。それには、「自分のおじいさんが第二次世界大戦で日本と戦ったことがあって、自分はおじいさんから日本や日本人は悪いと教育されて育ちました。だけどこの1週間の間、あなたの目や優しさを見てみると、なんて素晴らしい人達なのだろうと思いました。私は間違ったことを信じていました。そしてそれを許して欲しいし、心からあなたの愛や親切にありがとうと言いたい」と書いてありました。私はとてもびっくりしました。この一週間、クルーの中で一番気づかせてくれたのはトムでした。たしかに最初はとても無愛想で怖かったけど、理由があったんだね。それなのに優しくしてくれてありがとうと心から思いました。私は今回のキャンプで自分の信仰についてたくさん考えました。堅信はうけたけど、どうやって道をすすんでいいかわからなかったけれど、今は違います。イエス様が近くに居てくださる事を忘れずに素直に生きていけばいいのだということです。

＜上村さんのお母様からのお便り＞

キリスト教を中心にしたこのワークキャンプに参加させていただけたお陰で、娘は確実に神様としっかりと向き合い、信仰について考える機会を与えられ、一歩前へ進むことができました。これからの娘の長い人生の道のりに、このワークキャンプで学んだ貴重な体験は必ず

生かされていくことと思います。このキャンプに参加された他の仲間、そして保護者の方もきっと同じく感謝の気持ちでいっぱいだと思います。

自分自身の修復

(狩野千尋／ルーテル玉名教会・17歳)



私は教会に行くときはただ親について行くだけだったり、学校である礼拝もいつも真剣ではありませんでした。そんな私がもっと教会に行けばよかったなあと、もっと真剣に礼拝に参加していればなあと、もっと早く神様を感じていればなあと後悔したのはキャンプ中のことでした。みんなの英語についていけるかな、とそんな不安を抱えながら一週間の奉仕活動が始まりました。私たちが受け持った方の家はやはり少し古びた、とてもきれいとは言えないような家でした。この家を修復するにあたって、私には大きな目標ができました。この家と共に自分自身も修復していこうと。今回のテーマが修復だったのでみんな同じような目標を立てたのかもしれません。しかし私は、実際に修復する家を目の前にしたとき、「修復の本当の意味を感じ取ることができたような気がします。

人のために祈る

(森奈生美／ルーテルむさしの教会・15歳)



十字架の下で苦しそうにしている友達がいきました。私はそれまで自分の事にめいっぱい、その子がこんなに辛そうにしている事なんて全然気付く事ができていませんでした。だから、一生懸命泣きながらお祈りしている姿にとっても驚きました。私も、愛を持ってその子の傍にいてあげたいと考えました。でもなんとなく、どうやって近づけばいいのかわからなくて、祈り終えたほかの人たちとドアの外で話しながら、横目でチラチラと気にすることしかできませんでした。私は愛されることにばかり慣れすぎて、自分から愛することに慣れていないのだと気付きました。なんて声をかければいいのかと思うつつ、それでも傍に近づいてみるとその子は想像していた以上に悲しい思いを持つ

ているのだということを知り、その事に私はショックを受けました。私たちは心を込めてその子と一緒に祈り続けました。自分以外の誰かのために祈る、そんな素敵な光景がその体育館の中で他にもたくさん見られました。皆のそれぞれの祈りで十字架は赤く染まり、そこにはほんとうに神様がいらっしゃるのだと素直に感じることができました。

思いを伝える

(石川実可子／ルーテル名古屋めぐみ教会・16歳)



クルーとの顔合わせの時、何故か去年のように英語が聞き取れず、コミュニケーションがとれない事を、「去年みたいにクルーがゆつくりしゃべってくれない。去年はもっと感じよかった。」と言っては、人のせいにしていました。初日の昼のデボーションはただ聞くだけのものとなってしまいました。相手が一生懸命話してきているのに、答えられない、その申し訳なさで胸がいっぱいでした。でも、そんな時、私のクルーの皆は「問題ないよ、無理しなくていいからね」と優しく言ってくれました。思わず泣きそうになってしまいました。英語が上手く話せないという申し訳なさもあったけど、コミュニケーションが上手くとれないのを人のせいにしていた自分がとても嫌になったからです。でも、「このまま、去年みたいにデボーションに参加できずにキャンプが終わってしまうのは嫌だ」と思った私は、スタッフの皆さんに翌日のデボーションの内容の訳を手伝ってもらうことにしました。そのおかげで、翌日のデボーションに参加することができ、自分の意見に対して、時々皆が相槌を打ってくれたりすると、「自分の想いが伝わった」ということが実感できてとても嬉しかったです。

＜石川さんのお母様からのお便り＞

2回目の参加で、娘が相手の意見を真剣に聞くこと、いかに自分の思いを相手に伝えるか、この二つのことを学んできたことは本当に大きな成長でした。昨年のワークキャンプは中学3年の受験生で参加しましたが、ワークキャンプを通して、より神様の恵みを身近に感じたようで、その後の礼拝にもほとんど欠かさず出席し、休んだのは受験前後のほんの数回でした。そして、今年のイースターで教会の方たちの祝福の中、堅信に導かれたことは大きな喜びでした。

たしかな達成感

(齋藤葉子／ルーテル名古屋めぐみ教会・14歳)



人に優しくされたいと願っていた私は、自分が今までどれだけの優しさに触れていたのかに初めて気づき、人に優しくしたい、と初めて願った。私は、あの時の気持ちを失いたくない。ずっとその気持ちを持っていたい。私はこのキャンプでとてもいい経験ができ、すばらしいものを感じることができた。同時に、たくさんの人に迷惑をかけてしまったけれど、それに気づき、心から謝りたいと思った。あたりまえのことだけど、私はそう素直に思えた自分が嬉しかった。今度は、自分のことではなく、他の誰かのことで喜べるようになっていたいと思う。何か、絶対に手が届きそうにないものをつかんだ時のあの達成感みたいなものが、私の中にある。私は今、このキャンプで出会った全ての人に伝えたい。ありがとう、て。

行動が生み出す変化

(大柴 翔／ルーテルむさしの教会・17歳)



このキャンプの経験で僕は本当に人生が変わった、というか変わると思う。考え方や感じ方、もちろん神様に対しての関わり方もかなり変わっていると思うが、いろんな事が見えたおかげですごく大きな体験をして、人間的にもすごく変わったと思う。辛い事もたしかにあった、言葉の壁、疎外感、自分の前ではあまり笑わない子が、他の人の前でグラグラ笑っているのは結構ショックだった。でもそれでも思ったのは、積極的に、自分から、進んで行動する、というものの。そのおかげで本当に多くの人から愛されたと思える。これから参加する人もなるべく積極的に頑張るつもりで行けば、ただ楽しかっただけのキャンプではなく他にもいろんな事が見えてくると思う。この2週間を通して僕は、もっと世界を見てみたい、もっといろんな人と話してみたい、もっと神様と共に歩みたいと強く思った。それをこれからの生活でも忘れないでいきたい。

いつも見守ってくださる神様

(ラブリー・シドニー／西東京キリスト教会・14歳)



キャンプの1週間は本当に充実していて、良い思い出がたくさん出来ました。初日はワーク先と一緒に作業をするクルーのメンバーと会いました。メンバーの第一印象はいまいちだったけど、みんなと会話していくうちにすごく明るくて良いクルーに恵まれたなーと思いました。月曜～金曜まで毎日違うテーマで、その事について話し合いました。月曜日は「選ぶ」、火曜日は「赦し」、水曜日は「愛」、木曜日は「平和」、金曜日は「生きる」について語り合いました。各テーマのプログラムとデボーションには、本当に心動かされました。大泣きした日もあれば、仲間とたくさん笑った日もありました。でもなんといっても神様により近づけた事がすごく嬉しかったです!! 毎日のデボーションでみんなと話している時に、近くで神様が見守っているような感じがして、こんな遠くに来てても神様はずっとそばにいてくれるんだなーって思いました。そして彼は、私達を平等に愛してくれていて、1人1人をここに選んでこさせてくれたということを知って、なんか素直に喜ばしくなりました。

2008年度グループ・ワークキャンプ派遣者募集要項

以下の内容で、来年夏の派遣者を十名前後募集します。申込受付期限は2008年1月末日です。
◆派遣期間: 7月22日(火)～8月5日(火)
◆内容: 米国オハイオ州での数日間のホームステイと一週間のワークキャンプ(家屋修繕・聖書の学び等、参加者の信仰成長を促すキャンプ)に参加。
◆参加費: 18万円(パスポート取得費用及び海外旅行保険費用は自己負担)。分割払いその他参加費に関するご質問・ご相談は、JELA事務局まで。
◆問合せ・申込用紙請求先: 日本福音ルーテル社団(JELA)
住所: 150-0013 渋谷区恵比寿1-20-26
電話: 03-3447-1521 / ファックス: 03-3447-1523 / email: jela@jela.or.jp
◆選抜方法: 2008年1月末日までにJELA事務局に申込用紙が届いた人の中から、書類選考で派遣者を決定し、3月中旬までに本人に連絡します。

*注意事項

! 2008年8月1日現在の年齢が14歳～20歳の方が応募できます。
" キャンプは米国の団体主催・キリスト教超教派で運営されています。参加するキャンプには数百名のアメリカ人青少年が集います。キリスト教でなくても参加できますが、聖書を学び話し合う時間が毎日あり、すべての行事に積極的に加わる事が参加者に求められます。
牧師を含めた数名の日本人成人が同行し、言語的、霊的側面から日本人参加者を支えます。
\$ 主催団体との手続き等に時間がかかるため、申込期限が1月31日になっています。
% 参加確定通知後にキャンセルされる場合、その時点までに発生した費用をいただくことがあります。
& 参加確定者には、日本福音ルーテル教会が毎年3月下旬に実施している青少年向けキャンプ「春キャン」への参加を強くお勧めします。教会になじみのない方は、キリスト教のキャンプを体験しておくことが望ましいです。米国に行く仲間どうしが出発前に親しくなる機会でもあります。「春キャン」の詳しい情報は、グループ・ワークキャンプ派遣決定通知送付の際にお知らせします。

AGDM難民参加型アセスメントについて

国連難民高等弁務官駐日事務所 法務官補佐(難民支援担当) 宮澤 哲

UNHCRとパートナーは近年、難民支援の現場でAGDM難民参加型アセスメント(以下、AGDMアセスメント)を行っている。日本でも2006年夏に実施した。「難民参加型のアセスメント手法」というだけでもわかりにくい、その上「AGDM」というのもっと馴染みが無い。国連というところは略語が好きなところだなあ、と思われる方も多いのではないかな。

参加型アセスメントとは

「参加型のアセスメント」とは、難民の保護の必要をアセスメントする際に難民自身が参加することにより、難民の女性・男性とのパートナーシップを強化し、ニーズや今あるリソースを把握し、事業の計画に活かすことである。

他方、「AGDM」とはAge(年齢)、Gender(ジェンダー)and Diversity(多様性) Mainstreaming(主流化)の略で、保護・支援を行うUNHCRやNGOとその対象である難民が協議を行うにあたり、これらの要素を取り入れることにより難民の意義あるアセスメント参加を促進するものである。年齢や性別、背景の違うグループと多角的に協議をすることで、難民とUNHCR及びNGOがより一層パートナーシップを強化できるであろう、ということだ。また、AGDMのもう一つの特徴として難民のエンパワメントに留意したアセスメント手法が上げられるが、これについては後でコメントする。

AGDMの特徴

開発などの国際協力の現場でも、体系的な手法を用いて支援対象者の事業形成への参加を促すことが、より効果的な事業の実施形態であるということは認識されてきているが、AGDM手法の特徴としては、支援対象者がアセスメントに参加する際に、成人女性、成人男性、女子、男子、など、年齢や性別によって区分し、個別のグループに分けて聞き取りを行うことである。これにより、各グループがそれぞれに直面する特有の問題点が個別に調査できる。要するに、女性だけが直面する問題について議論するにあたり、女性だけで構成される難民代表グループと協議をするだけではなく、男性グループとも協議をすることが効果的なのではないかな、ということである。

東ティモールの事例

例えば、東ティモールで筆者が行ったAGDMアセスメントでは、女性グループでのみ取り上げられた問題に家庭内暴力(以下、

DV)があったが、同じ問題が男性グループの間では存在しないと回答された。DVの問題だけでなく、女性グループが取り上げた性的嫌がらせや、衛生関係の問題などは特に男性には取り上げられなかった。特に印象的だったのは、2ヶ月間両親とはぐれて再会することが出来ず、キャンプで偶然会った叔父・叔母のテントに世話になっているが、キャンプ生活のストレスなどから暴力が絶えないという問題を打ち明けた未成年だ。このような問題は、大人がいる前では話してくれなかったであろう。性別だけではなく、年齢別にグループ分けをする重要性を痛感した。



東ティモールに設置されたIDPキャンプのテントで(2006年8月撮影)



東ティモールでIDPを対象にしたAGDM難民参加型アセスメントを実施する筆者(左端)。(2006年8月撮影)

日本での調査

日本における調査でも、女性と男性の視点は異なる点が多かったと感じる。調査では、男女共に孤独感を感じているという回答があったが、女性の場合、理由としては、不安や出身国における習慣等から外出をあまりしないケースも多く、地元コミュニティとの接触が少ない故、孤独感を感じているという印象があった。男性の場合、言葉の壁などから友人が作りにくいということを理由に挙げている。結果として、「難民の孤独感」という問題に取り組むにあたって、男女別のものが必要だということである(詳細については、UNHCRのホームページに掲載されている調査の結果参照。

[http://www.unhcr.or.jp/protect/pdf/AGDM_FinalNote\(ENG\).pdf?id=45096d452](http://www.unhcr.or.jp/protect/pdf/AGDM_FinalNote(ENG).pdf?id=45096d452)。

これらの例にも見られるように、老若男女直面する問題は異なるので、出来る限り広範囲のグループを対象に調査を行うことが、効果的なアセスメントを行う上で大変重要である。

問題点への取り組み

さて、以上のようにAGDMアセスメントによってより細分化された問題点が抽出されるのだが、それらにどの様に取り組むかということが重要な次のステップである。UNHCRやNGOが調査結果を事業計画に組み込んでゆく過程は比較的理解しやすい。しかし、難民がどの様に関わってゆくことが出来るのか。

調査後にアセスメントの結果は集積し、AGDMワークショップと呼ばれる合議の場で分析する。難民も参加をし、どのような取り組みが出来るか検討する。その際、UNHCRやNGOの活動という視点だけでなく、難民自身が自助努力によって何が出来るのか、ということに注視する。

難民の自助努力の奨励

AGDM調査手法のもう一つの特徴は、難民自身が自助努力として何を出来るか、ということに注目している点である。難民が独自に提案する解決策を分析し、対象者のグループの能力(キャパシティ)を最大限に活かして、より効果的な難民保護・支援を行うということである。最近、「エンパワメント(能力強化)」という言葉がよく聞かれるが、具体的にどういうことか、以下でみてみたい。

中国におけるエンパワメントの事例

中国におけるAGDMワークショップでは、あるアジア系の難民申請者グループから、「医療サービスへのアクセスが無い」という問題点が挙げられた。それに対し、医療インターン生として中国に入国し、その後難民申請をしたアフリカ系の難民申請者から、当該のアジア系のグループに対して勤務する病院を通じて医療サービスを提供する、という提案があった。この申し出をうけて、UNHCRは医療サービスの機会を提供できるような環境を整えて促進した。これは、まさに難民のエンパワメントである。中国でのAGDMアセスメントは私にとって初めての経験であったが、思ってもみなかった解決策が出てきたことに驚かされた。



アセスメントの結果をまとめた、日本でのAGDMワークショップで説明する筆者(中央)。難民も参加した。右端後姿はJELA森川職員。(2006年10月撮影)

日本における難民保護・支援への難民自身の主体的参加

日本の調査でも、日本語が上手な難民グループが、あまり上手ではないその他の難民に対して語学をボランティアで教えることが提案された。これまでの支援では、「支援する側」と「支援される側」が分かれ、それらが交わることが少なかったように思えるが、同手法をもちいることで、難民とUNHCR及びNGOがパートナーシップを結び、難民自身がより効果的な難民保護・支援を行うための主体として参加をしていくことが出来るのではないかと考えている。AGDMのアプローチが今後一層事業形成に取り入れられることを切望する。

難民自身が分析に加わる利点

終わりに、難民の参加の重要性についてもう一言。調査及び分析を行うチームはUNHCRやNGOの職員で、法律や、ソーシャルワークなど、色々な背景を持ったプロフェッショナルが集まって形成された。職業背景だけではなく、性別、年齢、国籍などにも配慮した。日本におけるAGDMワークショップにはJELAをはじめ6つの団体から異なる背景の職員と難民が参加して行われた。難民が分析に関わってくることによって、異なる視点が取

り入れられるということはもちろんだが、通常のアセスメント・ワークショップとは少し雰囲気も違っていったような気がする。私を感じたの

UNHCRの説明会を ジェラミッションセンターで開催

8月9日の午後、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)ジュネーブ本部・国際保護部・第三国定住課のショーン・ヘンダーソン氏をジェラ・ミッションセンターにお迎えし、第三国定住に関する説明会を開催しました。第三国定住というのは、難民が祖国への帰還も、保護を求めて逃れた国での定住もできない場合に、別の受け入れ国へ移住させ、定住させる難民保護の一手段です。説明会では世界の難民の現状、難民保護の課題、第三国定住の目的・プロセス・基本原則・UNHCRが定める基準など、多岐にわたる課題について解説がなされ、出席したNGOの職員とのあいだで質疑応答が行われました。夏休み時期と重なり出席団体は限られていたものの、大変充実した会合でした。日本では、閣議了解に基づき行われたインドシナ難民の受け入れを除き、法律上この制度は存在しません。が、世界の多くの国が第三国定住の受け入れ国として責任を分担しています。日本での第三国定住は今後、難民保護のホットな話題になりそうです。(写真下)

第4回インド・ワークキャンプ 申し込み締め切り迫る!

来年のインド・ワークキャンプ参加者を募集中です。興味のある方はJELAまでお問い合わせください。締切が迫っていますのでお急ぎください。

◇対象:申込時に18歳以上で健康な人。

◇人数:十名前後

◇期間:2008年2月26日～3月7日

◇参加費:15万円(パスポート、海外旅行保険、予防接種の費用は別途個人負担)。

◇問合先:JELA森川

電話03-3447-1521

ファックス03-3447-1523

電子メール morikawa@jela.or.jp

◇締切:2007年12月2日

第1回カンボジア・ワークキャンプ実施される!

10月中旬から下旬にかけて、はじめてのワークキャンプをカンボジアで実施しました。小学校建築を支援している地域を訪れてペンキ塗り等のお手伝いもしました。『るうてら』や次回(4月)以降のジェラニュースに記事を掲載予定です。

は、学校の運動会で家族参加の二人三脚競技に出るような感覚だった。他の参加者はどの様に感じただろうか。

入国管理局の難民調査官むけ 研修に協力

JELAの森川職員は、法務省入国管理局難民関連部門職員のための内部研修の講師を昨年に引き続き依頼され、8月10日に法務総合研究所にて講義を行いました。昨年は「難民認定事務従事者研修」(第10回)での講義でしたが、今回は「入国管理局関係職員特別科(難民調査官)研修」(第23回)というもので、「難民調査官又は難民調査官の指定を受けることが見込まれる入国審査官に対して、難民調査官の職務の遂行に必要な特別の知識及び技能を修得させる」ことを目的とする研修です。2時間の講義では、ジェラハウスを中心としたJELAの難民支援活動、日本の難民支援NGOが実施している法的支援・生活支援の実際と遭遇する問題、最近の課題(国際空港で難民申請した者の長期収容、難民申請者の逮捕・収容の増加等)を中心に上げ解説しました。複数の受講者から質問が出る等、難民行政を司る法務省入国管理局と、JELAのように個々の難民を支援するNGOとの間における、有意義な意見交換の場となりました。

中国にてAGDMアセスメントの結果を分析するワークショップに参加する筆者。(2006年2月撮影)



ジェラ・ミッションセンターで「ハーベスト・タイム」の例会が！

20年以上にわたり日本全国と米国にキリスト教テレビ番組「ハーベスト・タイム」を提供しているハーベスト・タイム・ミニストリーズは、クリスチャンや一般人がじっくり聖書を学ぶための集会「ハーベストフォーラム東京」を、9月16日からジェラ・ミッションセンターで開催しています。メイン・スピーカーはテレビのホスト・中川健一師で、毎週の日曜(3時半～5時)と月曜(10時半～12時)にマタイ福音書から一章ずつ、ユーモアを交えながら、わかりやすく実践的に聖書の真髄が語られます。JELAのホールが、聖書を通して生きがいを求める人

々の学びと交流の場として用いられていることを、大変うれしく思います。(森川博己)



第1回フォーラムで聴衆に語りかける中川健一師

市ヶ谷教会でJELA子ども支援チャリティコンサート

ルーテル市ヶ谷教会では、昨年に引き続き今年もJELAのアジア・ブラジル子ども支援のためのチャリティ・コンサート「LOVE5」が、去る9月9日、ルーテル市ヶ谷センターで開かれました。出演は、日本屈指のボイストレーナー安ますみさんプロデュースで、ミュージカル、ポップス、ジャズ、狂言など各界で活躍する井上芳雄、井出麻理子、宮原永海、K、西任白鶴、愛甲友香、善竹富太郎、安田岳弘、藤山高浩、山本野乃香さんなど。それぞれのファンの方々が集まって立ち見の出る盛況ぶりでした。売上金429,005円はそのままJELAに寄付してくだ

さり、世界の子ども支援のために用いられることになりました。ご協力感謝いたします。



ホームページが生まれ変わりました！

JELAのホームページ(www.jela.or.jp)が内容を一新しました。今後は定期的に中身を更新するように努め、積極的にJELAの活動を周知していきます。新しいホームページをご覧になり、お気づきの点やご意見がありましたら、ホームページ上から電子メールでご連絡いただくとありがたいです。



教会等で本誌を受け取られる皆様へ

本誌は年3回(4月、8月、11月)発行し、支援者の皆様、関連施設、チャリティコンサート等の催しで住所・氏名をご記入いただいた方々にお送りしています。所属教会等で入手できるため自宅送付を希望されない場合は、ご面倒ですが、JELA事務局までご連絡ください。また、ご家族宛に複数部が届き、1部のみ希望される場合もお知らせいただくとありがたいです。なお、ご連絡はファックスまたは電子メールでいただくと、住所・氏名の識別が容易であり、大変ありがたいです。何卒よろしく願いいたします。

「ワインとチーズのパーティ」のお知らせ



12月14日(金)午後6時半からジェラミッションセンタービル1階にて、例年どおり世

界の子ども支援のための「ワインとチーズのパーティ」を開催します。参加費は2千円です。当日会場にてお支払いください。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

賛助会員制度の現状とお願い

2005年6月に賛助会員制度を設けて以来、徐々に会員数が増え、現在は200を超える個人・団体の皆様が会員になってくださっています。この場をお借りし、お礼を申し上げます。納めていただく賛助会費は、個々のプログラムに対する献金とは別扱いで、JELAという組織自体を支えるために用いさせていただきます。2005年度の賛助会費受取額は約80万円、2006年度は50万円、今年度は9月現在で約18万円です。事業年度(1月～12月)ごとの賛助会費は一口2千円ですが、いつでも、また何口でも、感謝してお受けいたします。会員数がさらに増加し、この会費収入が十分に安定した形で得られることが、JELAの様々な活動を継続して実施するために大変重要ですので、どうかご理解のうえお支えくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。(森川博己)

● 各プログラム支援献金

石田浩子／市ヶ谷教会／市原周子／伊東節子／稲福礼子／今泉テル／岩本保子／大塚眞佐子／岡部瑞子／小川晶人／小川金光／小川ナカ／柿沢純江／上窪松子／菊池杏子／京谷信代／清田純次／釧路教会／窪田銑子／倉重ミドリ／古財久美／後藤幸子／小松かつみ／小宮一道／近藤美知子／志田俊郎／斯波健一／周田裕芳／杉浦りえ／鈴木曉美／関口佳子／関本憲弘／高橋佳子／玉名教会／千葉教会婦人会(友田優子、西村紀子、安藤勝子、浜田良枝、岩知道コヅエ、中村雅子、五十嵐栄子)／柘植春子／堤重敏／東郷優子／鳥飼勝隆・豊子／中西須美／西平薫／芳賀明子／芳賀直哉・美江／橋本勢津子／早瀬康平／平林洋子／福田陽子／星野聖明／細山千恵子／松嶋俊介／松本通孝／三浦マリエ／光橋紀子／宮澤真理子／宮田満須子／牟田青子／森保宏／森涼子／森田雅子／八坂由貴子／安田やまと／山泉順子／山本了／リンダ・カオリ・タナカ／若原奇美子／渡辺映子・高伸／渡辺聡／ 他匿名数名

● 賛助会費

飯島早苗／伊藤勲／大澤朝子／大中正理／小川晶人／小川ナカ・金光／上窪松子／神谷智子／木曾勝子／窪田都子／島宗正見／高橋佳子／立山久美子／田中美紗子／鳥飼勝隆・豊子／中西須美／福田陽子／細山千恵子／前山貴史子／松隈貞雄／松嶋俊介／山本一男／ 他匿名数名

以上、敬称略。ご協力ありがとうございます。

なお、匿名をご希望の場合は、ご送金の際にお知らせ下さい。

編集後記

米国のワークキャンプ参加者は「選択」について学んだようです。黒澤明の名作『生きる』(1952年作品)も、ある意味で「選択」を主題にした映画です。役所の課長として「消極的選択」(＝何もしない、面倒な仕事は他の部署にまわす等)に終始し、無気力な人生を30年間おくらしてきた主人公。彼は自分が胃ガンで余命数ヶ月とわかった瞬間から「積極的選択」に目が開かれます。そして、人のためになる仕事に取り組み、それを全力でやりとげた後、静かに息をひきとります。映画を見終えて考えました、クリスチャンにとって「積極的選択」とは何かと。スイスのある牧師はこう言っています。「あなたは日々、神が差ししのべてくださるものの中から最高の選択をしなければなりません。その選択によって、本当に神のおそばに生きているかどうか決められるのです」。(M)

JELA
Japan Evangelical Lutheran Association
日本福音ルーテル社団
〒150-0013 東京都渋谷区道志町1-29-26
Tel. 03-3447-1521 Fax. 03-3447-1523 jela@jela.or.jp www.jela.or.jp
口座番号 00140-0-668206 加入者名 日本福音ルーテル社団